

第10回（仮称）箱根町住民自治基本条例策定委員会 会議録

日 時：平成19年9月5日（水） 18：00～21：00
場 所：箱根町役場分庁舎第5会議室
出席者：策定委員 芝、小川、飯田、川口、清野、高畠、 村上 箱根町 古谷、吉田 サーベイリサーチセンター 一杉、藁科

1 挨拶

委員長	8月の猛暑が過ぎ去ったと思った矢先、今度は新 手の台風の到来ということで、足元の悪いなか、お 集まりをいただいたことに感謝をする。策定委員会 も今回で10回目を迎え、内容的にも佳境に入ってい るのでよろしくお願ひしたい。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 庁内会議の結果について

事務局	4月の庶務主任者会議における平成18年度活動報 告に続き、先月の21日に第1回庁内会議（庶務主任 者会議）を開催し、条例骨子案についての説明を行 った。その結果、庁内からは主に5つの意見が出さ れた。
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

町民参加について「町民の意見を町政に反映
させる」とあるが、議会は、住民の代表であり、
そこには住民の意見が当然反映していると考え
るが、敢えて町政に町民が参加し、意見を反映
させる必要があるのか？

情報共有について「三者（町民・議会・町）
が情報を共有する」とあるが、町や議会からの
情報発信はともかく、町民からのまちづくりに
関する情報提供（要望等は除く）は実際に可能
か？

地域コミュニティについては、自主的な地域活動のみならず、自立(自律)を考えるべきではないか?

町民要望について「迅速・誠実な対応」とあるが、各地域での要望のレベルに差があるため、町民間での要望事項のすり合わせをする機会の創設などの検討が必要ではないか?

条例の見直しについて、見直しは慎重に行うとあるが、定期的に見直すべき性格を持つ条例ではないものの、見直す見直さないを含めた検討自体は必要ではないか?

委員長 事務局の報告に対して質問はあるだろうか。私としてはがよくわからなかった。結局何がしたいのか。

事務局 町政という言葉の捉え方が難しいのだと思う。

事務局 町政は、住民が直接選挙で選んだ町議会議員と町長により行われるもの。議事機関である町議会、執行機関である町長(町)の二代表制が自治体運営の仕組みである。そのため、町民がそこに自ら参加し、意見を反映させていくということは、妥当ではないのではないかという意見だと思う。

委員長 言いたいことは分からなくはない。だが、自治基本条例というのは総括的に基本的なことを決めるものなのではないか。その意見では、住民の意見をセーブするように聞こえてくる。

事務局 これについては、文言的なことなので、事務局としても整理していきたいと思う。

委員長 次に についてだが、箱根は依然として地域性が強い町だと思う。言いたいことはわかるが、誤解のないように基本条例に組み込むのは難しいのではないか。行政にしても、そういうシステムになっているし、こういう小さな町では、現実的に地域性を乗り越えるのは難しいと思う。

- 事務局 事務局としては、実践できる条例づくりをしたいと考えているので、そういう意見があるとして、今後検討していきたいと思う。
- 委員 について説明してほしい。例えばどういうことか。
- 事務局 地域コミュニティへの必要な支援はしていくのだが、支援の前にまず自立(自律)の必要があるのではないかということである。実際に団体の事務的なことを町が受け持ったりしているケースも見受けられる。
- 委員 自治会もそうか。
- 事務局 そうである。
- 事務局 運営を町に任せるのではなく、自分たちのコミュニティを自立させたらどうかということである。
- 委員 具体的には、事務的なことをやっている団体があって、そういった団体のことを言っているのか。自治会については、自治会単位では自分たちでやっている。連合会をつくるから、出張所が担当になってしまうだけのことだ。
- 委員長 さっきの話ではないが、地域を分けているからそういうことになる。
- 委員 地域の観光協会とかは、自立的にやっている。町から言われて設立したようなものが、事務局を頼っていると思う。
- 委員長 本当は、庁内会議にて具体的に逆提案してくれれば検討しやすい。
- 事務局 サポートの度合いや、認識の違いがあるかもしれない。
- 委員長 庁内とはこうやって検討をしていくとして、議会の検討は後になるのか。

- 事務局 議会には、文言を入れた物を途中で提示したいと考えている。
- 委員長 他の方はいかがだろうか。
- 委員 この意見は聞くだけなのか、意見をもんでいくのか。
- 事務局 策定委員会と庁内会議のキャッチボールなので意見をもんでいく形である。
- 委員 もっと明確な意見があつての検討ではないのか。意見がこれだけでは聞くだけになってしまう。
- 委員 これだけでは、なんとも言いようがない。第一段階と受け止めればいいのか。
- 事務局 正に第一段階で今後も検討を重ねる。次回以降は条文案を出すので、意見も具体的になってくると思う。
- 委員長 先程、庶務主任者と言っていたが、他の人にも意見は聞くのか。
- 事務局 今回は、実務担当者級に意見を聞いた。もちろんこれらを通じて、他の職員の意見も吸い上げている。そのため実務担当者みんなの意見ということになる。今後は部課長級等ともやる予定である。
- 委員長 検討して条文に盛り込むためにも、具体案を提示してもらいたい。遠慮なく、わかりやすくお願いしたい。
- 委員 今まで具体的とか実践的ということが一番大切だと考えてきた。これまで10回の策定委員会で学んだことは、それだけでは駄目だということ。具体的ではない条例なので、庁内会議の意見がわかりにくい、わかりやすく絞ってキャッチボールしたい。
- 委員長 事務局はこれらの意見を踏まえて、今後もいい方向で進め方を考えて欲しい。

3 中間フォーラム開催について

開催日：11月19日(月)

場所：本庁舎4階会議室

- 委員長 形式だが、パネルディスカッションの形式をとるとすると、通常パネラーが何人か話した後で質疑応答という形になると思う。それとも質疑なしで意見発表という形もあると思う。どういう形式がいいのだろうか。
- 事務局 それを集約した形で講師の先生が方向付けするというやり方もあると思う。
- 促進役 大きくは3つあると思う。1つめは、パネルディスカッションはやらず講演のみとする。しかしながら、ここまで検討してきたのだから、パネルディスカッションもいいかもしれない。2つめは意見発表にとどめるやり方。3つめは、発表だけにとどめず、質疑応答にも応じるという形になるかと思う。パネルディスカッションと一般的にいう場合は、パネラーによる意見発表、会場から意見を受けると言う形が多いが、必ずしもパネラーが答えなくてはいけないということではなく、先生も同席してくれると思うので、力をお借りすることもできる。
- 委員 時間的な制約があると思うので、先に時間を決めてしまえば、できることはおのずと決まってくると思う。先生の講演が30分でいいわけではないと思う。
- 委員長 どのくらいがいいのか。長いとだれてしまうと思うが。
- 事務局 実際には、全部で1時間30分くらいを考えている。
- 委員長 実際問題として感想的なことは言えるが、難しく専門的なことは答えられないと思う。あまり専門的に聞かれたら、先生とかじゃないと難しいと思う。

- 委員 普通は専門家がパネラーをやって、コーディネーターが進行すると思うが、専門的なことはできない。感想は言えるけど、意見となると難しい。
- 委員長 これまでの感想を言うのはどうだろうか。
- 委員 パネルディスカッションで感想を言っても仕方ないので、先生主導でパネルディスカッションやってもらった方がいいのではないかな。
- 委員 通常のパネルディスカッションで、発言者に質問がくることはないと思う。コーディネーターが受けて振っていくと思う。折角我々がここまでやってきたのだから、全員並んで、メンバー紹介したらいいと思う。
- 委員長 いいのではないかな。どうせなら一言ずつ言えればいいと思う。
- 委員 こういう類のものには何人くらい集まるのかな。
- 事務局 住民の方、議会議員、そして職員をあわせて90人くらいを考えている。
- 委員 一般の人はあまりいないのかな。
- 事務局 もちろん広報や回覧で周知をし、住民の方に来ていただけるよう努力する。
- 委員 あとは、紹介かパネルかだ。
- 委員 委員が参加しやすい方向で考えて欲しい。これからはやらなくてはいけないのに、これが嫌で参加しなくなっても困る。
- 事務局 司会進行と閉会の挨拶も委員にお願いしたいと思う。
- 事務局 司会進行や挨拶を住民組織の委員がやるということは、「みんなで創る自治基本条例」の趣旨にも合致するし、かなりインパクトがあると思う。

委員	それはいいかもしれない。
複数委員	インパクトあるし、いいと思う。
事務局	まとめると、パネルディスカッションは、紹介と今までの経緯の説明ということでもいいだろうか。
委員長	委員長の挨拶と経過報告は15分位でいいだろう。一般の人が多ければもっと説明が必要だが、その時の様子で変えればいいのではないか。
委員	他の人は2～3分で、パネルは先生に入ってもらえばいい。
委員	パネルっていうのは時間がかかる。講演をやって、そのような形式でパネルをやるっていうのはきついかもしれない。
委員長	先生には、講演と質疑応答をやってもらえばいい。
委員	パネルディスカッションっていう名前を変えればいいのではないか。
委員長	促進役が参加者にわかりやすいように聞いてもらえばいいと思う。
促進役	皆さんパネルディスカッションっていう言葉にこだわっているのだと思う。パネルでもこんなことを話して欲しいというようなシナリオはある。基本的には委員の皆さんに話してもらう時間が多い方がいいと思う。
委員長	参加者によって違ってくると思う。わかっている人の前でパネルをしても仕方ない。参加者に住民が多いかどうかで考えればいいと思う。
事務局	確かに、住民の参加は多くないかもしれない。
委員長	そうならば、職員との交流のチャンスなのではないか。

- 委員 主体は委員だとしても、議員や役場を同じテーブルの上に乗せることはできないのか。
- 委員長 いいチャンスと考える。質問は専門家に任せて、切り替えていけばいいのではないか。フォーラムではなく、キャッチボールの会とか。
- 委員 委員会VS行政でもいいのではないか。
- 事務局 いい考えだとは思いますが、現実的に難しいと思う。
- 委員長 行政側の意見は抽象的ではなく、はっきりさせて欲しい。
- 事務局 次回以降は、具体的な条文ベースでキャッチボールを行うので、論点もはっきりしてくると思う。
- 事務局 会うことはできないということではなく、庁内会議と委員会の関係をどのように進行するかは、以前に委員会で決めたとおりである。
- 委員長 キャッチボールという言葉の捉え方が、事務局と私では違うと思う。別々に検討するとしても、最終的に意見はダイレクトに聞きたい。
- 委員 以前に庁内会議とのあり方を決めたとしても、その時点でこの意識のレベルはなかった。中間フォーラムの方法を変えてもいいと思う。
- 委員 今までも、中間フォーラム開催を宣伝しているので、フォーラムと庁内会議の件は別々に考えた方がいいと思う。
- 事務局 まとめると、委員と職員との対談は要検討ということで、策定委員会と庁内会議のあり方を今後検討するということにしたい。
- 委員長 促進役に聞きたい。フォーラム開催の目的は何か。
- 促進役 まず、一番大きな目的は町民への周知だと思う。周知の方法としては、フォーラム・アンケート・パ

	ブリックコメント・地域懇談会など色々である。その一つの手段としてのフォーラムに、たとえ参加住民が一人でも、その方に向けて周知を行うことは意味があると思う。
委員	確かに、アンケートの報告書を見ると、自治基本条例の周知方法として、フォーラムと回答している人が9.1%もいる。フォーラムはやはり必要だろう。
委員長	わかってはいるのだが、再度確認をしたかった。後は参加してもらえる方法をもっと考えよう。

4 住民アンケートの結果について

促進役	資料によるアンケートの結果報告
委員長	この回収率は低いと思うが、これは箱根町だからということか。
促進役	そうとは言いきれない。近年の傾向を見ても、年々回収率は下がってきている。10年位前までは、50%程度あった。それが今は40%台に落ちている。さらに民間の調査となるともっと低くなる。またアンケートの性質もあると思う。合併に賛成か反対かというか×を問うものや道路のことなど自分にとって身近なことだと回収率が高くなる。条例や男女共同参画といったアンケートは、利害が直接及ばないので、回収率は低い傾向にある。
促進役	内容については、「役場側としてはやっている、住民側からは情報がこない」という視点がある。住民側からのもっと積極的に参加しようという意思が条文には薄いかもしれない。
委員	そう考えると、冒頭の庁内会議での意見は、確かに町政という言葉は正式にはどうかという意見もあるかもしれないが、抑制していく方向は意識を低下させてしまうことになると思う。

- 委員長 昔の人は、言われたことをそのまま受けていた。今の人は、言われたことだけでなく、いろいろな意見を取り入れていると思う。外から働きに来ている人に聞きたいが、箱根についてどういう風を感じているか。
- 委員 箱根地区労働組合には、箱根全山に関係者が700人位いる。組合の平均年齢は30代で、企業で働いている人は若い人が多い。その一方、住んでいる人は50代～60代、30年以上住んでいるような人が多い。正に新旧が混在している町だと思う。また、先程も話しには出ていたが、地域性が強く地域ごとのバラツキ感を感じる。観光に関して、観光産業が多すぎてどこが主体なのかが見えない。
- 委員長 そう、昔とは変わった。昔は健民祭とかで地元企業との交流があった。ホテルには従業員がたくさんいたし、濃い付き合いもあった。今はそれがなくなったと思う。
- 委員 必要だと思う。もっとあったらいいと思う。
- 委員長 では、今回はこの辺りということにしたい。
- 副委員長 条例策定作業もいよいよ第4コーナーに入り、熱の入った委員会になったと思う。次回もよろしくお願ひしたい。